

平成 21 年 2 月 24 日

周産期・救急医療 専門家会議 議事次第

主催：平成 20 年度厚生労働科学特別研究「救急部門と周産期部門との連携強化に資する具体的手法に関する研究」（主任研究者 杉本 壽（大阪大学医学部救急医学）・担当分担研究者 海野信也（北里大学医学部産婦人科学））

共催： 日本産科婦人科学会・日本救急医学会・日本小児科学会・日本周産期新生児医学会・日本麻酔科学会

日時：平成 21 年 3 月 1 日（日曜） 午前 10 時より午後 6 時

場所：東京駅八重洲ビジネスセンター「ホール 3A」（175 名収容）

http://www.tkptokyoeki-bc.net/hall_00.shtml

<http://www.tkptokyoeki-bc.net/access.shtml>

アクセス：JR 東京駅八重洲南口より徒歩 6 分

東京メトロ銀座線京橋駅より徒歩 2 分

都営浅草線宝町駅より徒歩 1 分

予定参加者：厚生労働省「周産期医療と救急医療の確保と連携に関する懇談会」委員および参考人、全国の周産期母子医療センター産科・新生児科担当者および周産期救急医療専門家、救命救急センターの担当で周産期救急に関与している専門家、周産期に関係の深い麻酔科等の専門家。この問題に関心の深い方。

参加呼びかけを、各学会の HP を通じて行うとともに、総合周産期母子医療センターについては直接招請状を郵送する。事前登録を呼びかけるが当日参加も可

会議の公開：会議は公開で行い、報道関係および一般の傍聴者を受け入れる。

議事次第案

- 基調報告者は懇談会の委員または参考人が担当し、懇談会の議論の流れを受けて、議論をはじめていくことを想定している。基調報告は各 10-15 分程度、指定発言は 5-10 分程度

第1部 10:00-12:00：周産期医療と救急医療の連携

司会：杉本 壽・末原則幸

基調報告：

海野信也：『「地域母体救命救急体制整備のための基本的枠組の構築に関する提言」について』

有賀 徹：「産科と一般救急のコラボレーション」

岡井 崇：「東京都母体救命搬送システム」

末原則幸：「大阪における母体救命救急体制の検討について（仮題）」

指定発言：

1. 森臨太郎：「周産期医療システム構築の為の政策立案の考え方」
2. 嘉山孝正：「救急医療におけるシステムエラーについて（仮題）」
3. 照井克生：「周産期センターにおける麻酔科医の役割（仮題）」
4. 古家 仁：「日本麻酔科学会の考え方（仮題）」

第2部 13:00-15:00 新生児医療の抱える諸問題

司会：田村正徳・海野信也

基調報告：

杉浦正俊：「NICU が抱える諸問題-病床と新生児科医の不足、標榜科」

藤村正哲：「診療実績の評価と新生児医療体制の再構築」

指定発言：

1. 市場博幸：「新生児搬送の現状と課題」
2. 網塚貴介：「新生児科医師不足が新生児診療体制と予後に与える影響」
3. 梶原真人：「NICU 長期入院児の現況と展望」

第3部 15:30-18:00 周産期救急医療における患者受入の効率化・施設機能の評価と情報公開の方法

司会：松田義雄・照井克生

基調報告：

海野信也「検討課題に関する論点整理」

指定発言：

1. 石川 薫：「母体搬送の受け入れ改善のための方策（仮題）」
2. 鈴木 真：「広域搬送と戻り搬送について（仮題）」
3. 萩田和秀：「病院集約化でいかに病院機能が向上したか」
4. 光田信明：「産婦人科一次救急医療体制の整備（仮題）」
5. 長 和俊(予定)：「新生児診療能力から見た周産期センターの再構築」